



発見!

元気な農^む山^ら漁村



むら
発見! 農山漁村の宝 (第7回応募団体)
取組事例集

【お問い合わせ先】

中国四国農政局香川県拠点地方参事官室
〒760-0019 香川県高松市サンポート3番33号
☎087-883-6500

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511 (代表)

香川県

令和3年3月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和2年度）で7回目となります。

中国四国農政局管内では144件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と2名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として12地区と2名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和3年3月
中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について	1
○ 応募団体一覧	6
○ 応募団体位置図	7
○ 応募団体の取組事例	8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）では、令和2年7月1日から9月4日までに、農山漁村活性化の取組として全国から794件（管内からは144件）の応募があり、11月4日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として28地区と個人部門として4名が選定されました。

中国四国農政局管内からは優良事例として6地区が選定され、その中からコミュニティ部門の部門賞（準グランプリ）に山口県山口市の「株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ」、ビジネス部門の部門賞（準グランプリ）に徳島県阿波市の「GOTTSO阿波」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった144件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和2年10月26日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と2名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として12地区と2名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
選定地区オリジナルロゴマーク

3. 選定地区（管内）の概要

(1) 全国版選定地区（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第7回選定））

株式会社ウッドスタイル（島根県松江市）

- 丸い竹を平らにする事により「新素材」として新しいマーケットを広げ、家具や建材等に竹を有効活用。
- 竹の伐採・利用により、放置竹林の解消や石見銀山世界遺産センターの展示什器の新設など地域に貢献。



地元小学生とともに石見銀山の竹の伐採

裳掛地区コミュニティ協議会（岡山県瀬戸内市）

- 移住者の受入による地域人口の維持を主眼に、情報発信や空き家等の整備、外部との交流機会を創出。
- 地域独自の寺子屋「もかけてらこや」の開設や、小学校支援地域本部の設置を通じた支援なども実施。



移住者受入のための空き家を整備

株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ（山口県山口市）

準グランプリ受賞地区

- 6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組。
- 飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。



本取組による飼料用米を給餌する
国産鶏種「丹精國鶏」

GOTTSO阿波（徳島県阿波市）

準グランプリ受賞地区

- 地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。
- 地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、オリンピックでの納品を目指したグローバルGAPの取得を実施。



2020年度のPRポスター

木沢林業研究会（徳島県那賀町）

- シカに食害されないミツマタに着目し、生産から出荷・商品開発まで取り組み、限界集落の活力を取り戻す。
- ミツマタの新商品の開発・流通に成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。



ミツマタの白皮剥ぎ作業

愛媛県立土居高等学校情報科学部（愛媛県四国中央市）

- 地元の日本3大原産地の一つである五葉松の盆栽農家が存続の危機に直面しており、存続に向けた取組を実施。
- インバウンド盆栽ツアーの実施や、コロナ禍におけるオンラインの活用により地方創生に貢献。



インバウンド盆栽ツアープランの
商品化

(2) 地方版選定地区 (中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」)

株式会社 センコースクールファーム鳥取 (鳥取県湯梨浜町)

- 梨の木のオーナーを当初は社員を対象に募集していたが、令和元年から一般募集も開始。
- 梨の管理はプロジェクトが行い、オーナーへ生育状況をネットで配信。
- 収穫時期には収穫体験をしてもらい、収穫した梨は自宅に届け、賞味してもらおう。
- 希望に応じて青果から梨ジュースや梨ドレッシング等の加工品への交換も可能。



梨オーナーの収穫体験

里山照らし隊 (島根県雲南市)

- 独居高齢者宅や離農者が所有する田畑の草刈りを、応援者とともにを行い農村景観を保全。
- 田植えや稲刈りなどの農業体験や、竹林などの自然環境を生かした子供達のアートイベントも、民間団体等との協働事業として取り組む。
- 森林資源を活かす新しい技術として開発された、木炭を原料にした炭の蓄電器の製造・開発の社会実験を開始。



草刈り作業後の記念撮影

有限会社 木村有機農園 (島根県雲南市)

- 平成11年より環境保全型農業に取り組み、中山間の環境を活かした農業、有機栽培等に取り組む。
- 新規需要米で高アミロース米を栽培し、100%米粉麺「田守り麺」を製造。製造特許も取得。販路拡大にも取り組む。
- 農家レストランと産直を2店舗開設。
- 島根県立農林大学のサテライト校として農業体験実習や視察研修を受け入れている。



産直市「よってごしな菜」

植田 輝義 (岡山県岡山市)

- 全身黄色を身にまとい、自称黄ニラ&岡バク大使として、メディア(TV、ラジオ等)に出演し、産地のPRに取り組む。
- 黄ニラ&バクチー取り扱い飲食店増加計画やイベント等を実施。
- 地産地消や学校給食への取組、支援学校、ケアハウス等と連携を強化し活動を展開。
- 個人事業主から農業生産法人(株式会社アーチファーム)を設立。設立直後、西日本豪雨で被災したが、壊滅状態から復興。



全身黄色！自称黄ニラ&岡バク大使として活動

日生町漁業協同組合 (岡山県備前市)

- 毎年、アマモの繁殖期に花枝採取～保管(葉や茎を海中で腐らせる)～10月頃種を選別し播種する取組を継続。
- アマモ再生活動は、日生藻場造成推進協議会(H21設立)124名で活動。
- 地元の小中学生や高校生、消費者団体との連携による体験活動を実施。
- 平成28年に「全国アマモサミット in 備前」を当地で開催。



日生藻場造成推進協議会のメンバー

菅 秀和（広島県尾道市）

- 営業活動を兼ねたブランディングの手段として小売り店や飲食店にワークショップやセミナー企画を提案。
- コロナ禍を踏まえ、ネット型農業学校の講師を受け、就農希望者へ自身の経験を通して、考え方や方法論を伝える。
- 規模拡大時のインシャルコストの問題を解消するために、レモンを使った商品開発や業態開発を飲食店や外食企業に提案。
- 微生物資材を多用した土作り等に取り組む。



観光複合施設でマルシェ企画提案

阿知須まち開発株式会社（山口県山口市）

- 地産地消パンの開発プロジェクトを企画。山口県オリジナル野菜を使用した、「はなっこりーの花パン」をはなっこりー生産者・養蜂家・パン職人・道の駅駅長の女性4人が中心となり開発した。
- 東京からリターンした若手女性和菓子職人と連携し、道の駅オリジナルの阿知須饅頭を共同開発。
- 地域の加工者や生産者の交流支援を実施。



開発した「はなっこりーの花パン」

萩酒米みがき協同組合（山口県萩市）

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。



酒米生産から醸造まで「オール萩阿武」ブランドのお酒

農事組合法人 ウエスト・いかち（山口県柳井市）

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。



女性部による農産物の加工・販売

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。



棚田アイス

塩飽部隊（香川県丸亀市）

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の実地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集まり、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人 You-Tuber による手島の動画配信中。



島民と京大生による竹林伐採

松山東雲短期大学しののめベジガール（愛媛県松山市）

- 愛媛県産品を使用した朝食レシピの考案。カゴメ（株）と連携した野菜スムージー・野菜スープを考案。また、野菜を使用したベジスイーツを開発。
- マルシェ等に出店し、野菜スープやベジスイーツの販売を通して食育に取り組む。
- 小学生の親子を対象に、大豆の播種から収穫の農業体験と、収穫した枝豆を使用したオリジナルレシピの調理を実施。



カゴメ(株)イベントで野菜・朝食摂取PR

愛媛県立丹原高等学校園芸科学科 GAP 班（愛媛県西条市）

- GAP 認証の取得に取り組む、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP 認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。
- GAP 認証取得による取引拡大と当校の PR のため、台湾への輸出に取り組む、生徒 20 名による台湾でのプロモーション販売を行った。



GAP 審査(現地調査)

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（愛媛県伊予市）

- びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。
- 農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。
- 他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。



子供食堂への参加
—地元農家との連携—

沢渡茶生産組合（高知県仁淀川町）

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が（株）ピバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。

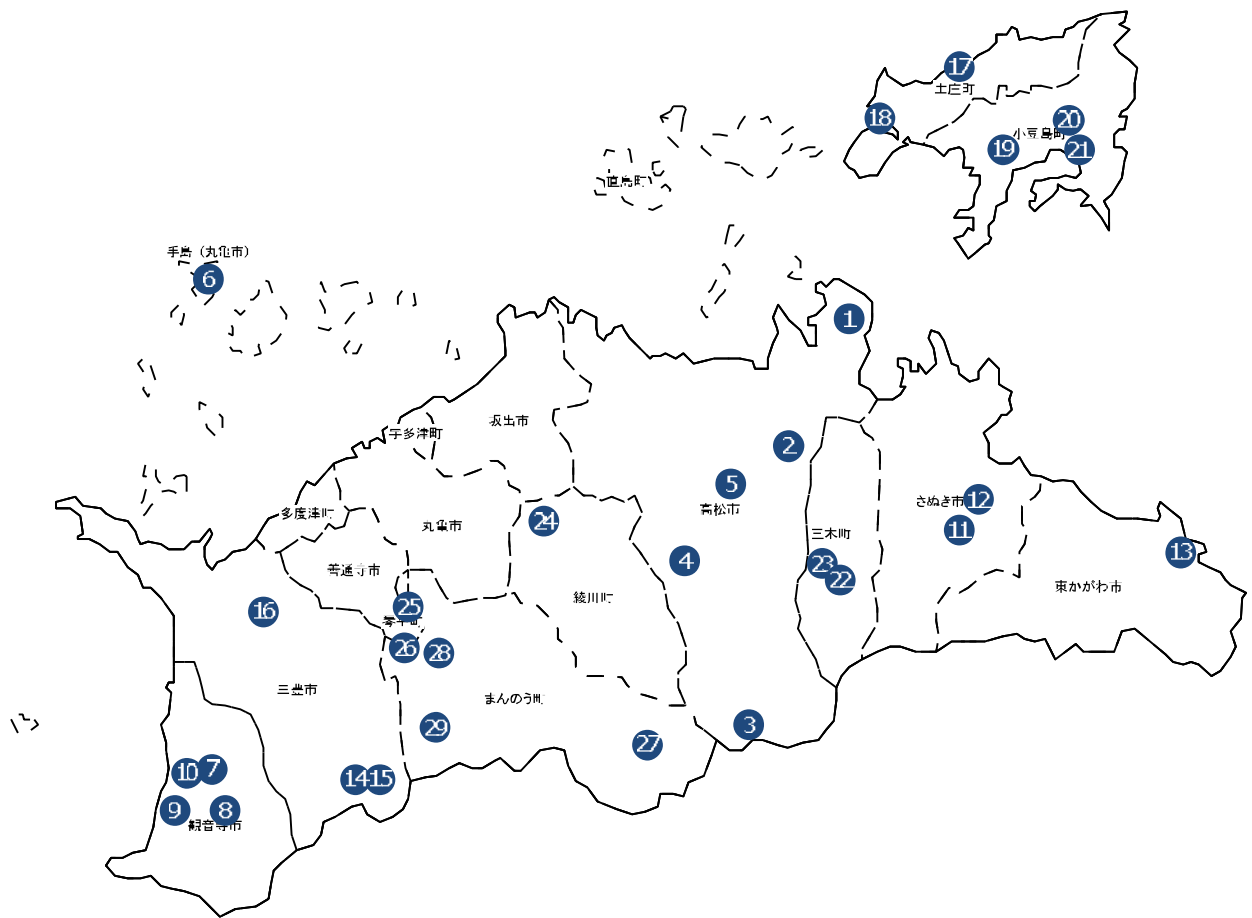


お茶摘み体験ツアー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定) 応募団体 一覧 (香川県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		ビジネス	高松市	社会福祉法人 洋々会	食育・教育	6次産業化	農福連携
②		ビジネス	高松市	特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会	雇用	農福連携	高齢者の活躍
③		コミュニティ	高松市	特定非営利活動法人 奥塩江交流ボランティア協会	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	伝統の継承
④		コミュニティ	高松市	有限会社赤松牧場	その他(耕種農家と畜産農家の耕畜連携及び地域交流)	—	—
⑤		コミュニティ	高松市	香川県三郎池土地改良区	環境保全・景観保全	食育・教育	教育機関との連携
⑥		コミュニティ	丸亀市	塩飽部隊(四国夢中人)	環境保全・景観保全	教育機関との連携	—
⑦		コミュニティ	観音寺市	油井水土里保全組合	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	食育・教育
⑧		コミュニティ	観音寺市	五郷里づくりの会	農泊	伝統の継承	その他(里山歩き、地元食材の利用、観光)
⑨		コミュニティ	観音寺市	観音寺市 本村地区環境保全会	環境保全・景観保全	伝統の継承	食育・教育
⑩		コミュニティ	観音寺市	大野原地域資源保全会	環境保全・景観保全	食育・教育	—
⑪		コミュニティ	さぬき市	南川自然薯研究会	農林漁業、農村文化体験	食育・教育	高齢者の活躍
⑫		コミュニティ	さぬき市	豊田協定	鳥獣被害防止	—	—
⑬		ビジネス	東かがわ市	株式会社ソルトレイクひけた	農林漁業、農村文化体験	食育・教育	—
⑭		ビジネス	三豊市	大地と語り合う会	6次産業化	高齢者の活躍	その他(地元食材の提供・活用)
⑮		個人	三豊市	多田弘美	6次産業化	高齢者の活躍	その他(地元食材の提供・活用)
⑯		コミュニティ	三豊市	下高瀬子どもすこやかボランティア	食育・教育	教育機関との連携	—
⑰		コミュニティ	土庄町	小豆島屋形崎夕陽の丘継承会	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	高齢者の活躍
⑱		コミュニティ	土庄町	小豆島陽当の里伊喜末	鳥獣被害防止	農林漁業、農村文化体験	食育・教育
⑲		コミュニティ	小豆島町	小豆島町中山棚田協議会	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	その他(地元食材の提供・活用)
⑳		コミュニティ	小豆島町	東條地域農業集団	鳥獣被害防止	環境保全・景観保全	食育・教育
㉑		コミュニティ	小豆島町	小豆島食材開発会議	6次産業化	企業との連携	高齢者の活躍
㉒		コミュニティ	三木町	丸岡生き活きクラブ	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㉓		コミュニティ	三木町	三ツ子石池資源保全組合	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㉔		個人	綾川町	稲木健造	農泊	6次産業化	企業との連携
㉕		コミュニティ	琴平町	苗田東環境保全の会	環境保全・景観保全	食育・教育	移住・定住
㉖		コミュニティ	まんのう町 ほか	満濃池土地改良区	伝統の継承	食育・教育	—
㉗		コミュニティ	まんのう町	島が峰の原風景を守る会	環境保全・景観保全	6次産業化	—
㉘		ビジネス	まんのう町	帆山地域保全活動組織	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	6次産業化
㉙		ビジネス	まんのう町	株式会社グリーンパークまんのう	移住・定住	雇用	6次産業化

応募団体位置図（香川県）



社会福祉法人 洋々会

～農地活性化と障がい者就労の両立を目指して～



あじの里福祉農園全景



ジョブコーチとともに播種する障がい者

経緯

- 洋々会の活動地域は、農家の高齢化・過疎化が進み、担い手不足から農業の引き受け手がないため、遊休農地が増え、地域農業の維持が困難になりつつある。
- 障がい者は景気の低迷等から就労先の確保が困難となりつつある。
- 障がい者の勤労先の確保と地域の農地維持等の観点から、農業分野と福祉分野の両面の対策として、あじの里福祉農園を運営。

取組内容

- 福祉農園における営農の収益性、継続性を確保するため露地栽培とビニールハウス栽培を併用した通年栽培を実施。
- 専門家の指導を受けながら市場に受け入れやすい指定野菜に特化(ミニトマト栽培に注力)した栽培を行う。
- 市場に出荷できる形態への野菜調製は、洋々会施設内に加工所を設けて実施。
- 生産物の一部は、関連施設の食品事業者と契約販売するとともに、施設内外での野菜即売会でも販売。

活動の効果

- 福祉農園事業を推進することによって、障がい者の安定的な就労機会を確保できており、更なる就労機会の創出を目指す。
- 増加傾向が顕著な周辺遊休農地の解消につながっている。
- 農地耕作の担い手が減少している同地区においての歯止め効果、障がい者就労機会はもとより、この事業に携わる人材の賃金収入の向上が期待できる。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の皆様からの福祉農園に対する期待は高まっており、今後も地域に根差した活動を行っていききたい。

とくていひえいりかつどうほうじん かがわけんしゃかいしゅうろうせんたーきょうぎかい
特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会

～障がい者と農業者の架け橋として～



支援強化研修会(アスパラガスの定植作業)



農作業中の障がい者のみなさん

経緯

- 障がい者福祉施設では、受託作業の減少や自主製品の販売不振などから収益が減少し、一人あたりの平均工賃が10,000円台/月と低迷。
- 農家では、高齢化が進む中、農繁期の労働力不足などにより、経営規模を縮小する農家が増加しており、労働力確保が急務。

取組内容

- 平成23年から、NPO法人香川県社会就労センター協議会に「共同受注窓口」を設置し、農作業請負のマッチングによる農福連携の取組を開始。
- 工賃の値上げ交渉の実施。
- 農作業に参加する障がい者施設を増やすため、現場で細かな支援ができるよう農福連携支援員やジョブコーチを委嘱。

活動の効果

- 障がい者のできる仕事が県内の農家に浸透。
- 現在、施設外就労に年間延作業人数約15,000人が参加。
- 施設利用者の作業工賃は年々増額。利用者も「やればできる」という体験から働く意欲が湧き、更には、働く姿が認められ、一般就労へと進む者も現れた。
- 農家からの作業依頼は年々増加。農家において障がい者はなくてはならない存在となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、関係者との意思疎通を円滑に行い、農作業に参加可能な福祉施設を増やしていくとともに、他県からの視察等の受入や各種セミナー等に出席して、全国に香川県の「共同受注農作業システム」による農福連携の取組を広げていきたい。

高松市元山町1193-2 Tel: 087-813-1420

特定非営利活動法人 奥塩江ボランティア協会

～スローライフを楽しみ持続可能な社会に貢献～



楽農人事業 茶畑再生



まんぷく会

経緯

- かつては木・炭・農産物の供給地や交通の要所として賑わっていたが、過疎・高齢化が進み、地区の小学校も廃校となり、地区の活気が失われた。
- 賑わいを取り戻そうと、有志20名が中心となり地区の活性化を目的として2006年に「奥塩江交流ボランティア協会」を設立した。

取組内容

- かつて地域で中核的な特産物であった茶の復活のため、『楽農人事業』として耕作放棄地となっていた茶畑を再生した。
- 地元で採れた食材を使い、地域内外の人が集まり調理や食事会を行っている。
- ハイキング、山菜採り、史跡紹介事業を実施し、参加者に自然と山村風景の残る奥塩江の魅力を紹介している。

活動の効果

- 現在はお茶だけでなく、ソバや野菜の栽培も始め、少しずつ耕作放棄地を減らすことに貢献している。
- 当協会の100名の会員は、『モモの広場』と名づけた元上西中学校・上西保育所跡と、山村『奥塩江』に残る豊かな自然・風土が好きで、『のんびり、ゆったり、心豊かに』、『スローライフを楽しみ、持続可能な社会に貢献する』を合言葉に集まっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

山村『奥塩江』に残る豊かな自然・風土を活かし、伝統文化の継承、農村文化の体験等を行っています。

ゆうげんがいしやあかまつぼくじょう

有限会社 赤松牧場

～ 耕畜連携と6次化で地域とともに発展～

耕畜連携



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

店内では、
シュークリーム、焼き菓子など多彩

ジェラートショップ

お洒落で明るい店舗は、地域交流の場

経緯

- 経営規模の拡大と安定化を図るため、平成15年に法人化した。また、平成22年に自家製牛乳を利用したジェラートショップを開設し、6次産業化に取り組む。
- 平成27年に米価下落の対策として耕畜連携による稲WCSの栽培を実施し、令和2年度から飼料用トウモロコシの栽培に取り組む。

取組内容

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲WCSを栽培し、生産した稲WCSを飼料として畜産農家へ供給。平成28年にWCS生産組合を設立。
- 堆肥を供給した圃場で生産された農産物の一部を店舗で販売するジェラートの原料として使用し循環型農業を推進。
- ジェラートショップを運営し幅広い客層が来店することで地域交流の場を提供。

活動の効果

- 耕畜連携の拡大は、耕種農家の収益等の向上、畜産農家の飼料コスト低減や飼養規模の拡大に繋がり、相互にメリットがある取り組みとなっている。また、地域の相互交流で、地域が一体となって農業を盛り上げようとする気運が高まっている。
- ジェラートショップの運営は、さらなる環境整備や安全・安心な生乳生産に活かされているほか、チーズの製造・販売によりさらなる地域交流と消費者交流を進めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

さらなる消費者との交流や耕畜連携の拡大を進めるため、ジェラートだけではなく令和元年度に整備したチーズ製造施設(工房)で、今後販売するチーズを試作中です。

かがわけんさぶろういけとちかいらよく
香川県三郎池土地改良区

～ため池のクリーン作戦と多面的機能のPR～



池内での活動状況



地域の小学校での校外授業

経緯

- 平成3年度に県営利活用保全施設整備工事を実施し、堤防エリアを公園整備し地域の憩いの場とした。
- 近傍にある日山の登山道の整備と相まって利用者は増加し、ゴミ対策と景観保全が課題となった。
- 平成22年からクリーンアップ作戦を展開している。

取組内容

- 平成22年から、3年に1度池干しのための落水にあわせてクリーンアップ作戦を実施。平成25年、29年に引き続き令和2年11月にも実施し、約100人の参加により800kgのゴミを回収した。
- 平成25年からクリーンアップ作戦に合わせ、小学生の校外授業として三郎池に住む生物について淡水魚の専門家を招き説明会を実施している。
- 地元小学校等での出前授業を実施。

活動の効果

- クリーンアップ作戦により池の水質改善がみられるようになったことに加え、捕獲したすっぽんを小池に放流したところ、ジャンボタニシの駆除に成功した。
- 貯水量170万トンを超える三郎池の多面的機能を地域住民に理解してもらうとともに、緊急時の避難経路等について三郎池の存在を意識した計画が策定された。
- 池干し時に外来種の生物を駆除することにより、三郎池に生息する在来種の保護を推進している。

応募団体からのアピール・メッセージ

クリーンアップ作戦だけでは手の届かない部分について対策を講じたい。今後も地域の方と連携してこの活動を継承し、ため池の適切な維持管理に努めたい。



しわくぶたい

しこくむちゅうじん

塩飽部隊(四国夢中人)

～瀬戸内の島に花と昆虫の楽園を作ろう～



島民と京大生による竹林伐採



香川丸亀養護学校の生徒による植栽

経緯

- 香川県丸亀市沖の手島は人口わずか20人で、高齢化率は90%。2016年11月に3人の京大農学部学生と島を訪問。島に生きる人たちの力強さに感銘を受け、塩飽諸島を盛り上げるための活動が必要だという思いを抱く。
- 手島を瀬戸内のモデルアイランドにしようと、手島の住民、京大生、NPO「四国夢中人」によって任意団体「塩飽部隊」を設立。

取組内容

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の現地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集合し、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人You-Tuberによる手島の動画配信中。

活動の効果

- 塩飽部隊は、様々な分野の人の集まる場所として、島の資源を活かした取組を実施。これらの活動を英語版YouTubeを通じて国内外に発信することで、メディアにも取り上げられ、「手島」の認知度が上がった。
- 春、夏、秋の四季折々の花が島のメイン道路で咲き、島民たちに癒しと賑わいを与えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

様々なジャンルの学生(京大農学部・香川大学農学部・岡山理科大学有志、養護学校園芸部)や外国人ALT(英語補助指導教諭)等や島民と共に、「人と自然が共生できる空間」を目指している。将来に向けて持続可能な活動として移住促進、海洋ごみ、空き家対策などの問題を地道に解決していきたい。

油井水土里保全組合

～各種団体の連携、協力による農村環境づくり～



地域の神社境内での三世代交流スポーツ大会



広庄池の草刈り

経緯

- 圃場整備をきっかけとして、高齢化や混住化に伴う遊休農地の解消と、江戸時代から受け継いできた広庄池等水資源の維持管理を図る。
- 新興住宅地の若い世代の協力を得て地域全体の環境活動とするため、農地・水・環境保全活動への取り組み。

取組内容

- 広庄池の堤防にスイセン、ヒガン花、堤外には萩、アジサイを植えて管理。水路法面には、センチビートグラスを植栽し雑草防止、法面侵食防止を図り、定期的に水路清掃を実施。
- 旧五兵池に梅、桜、藤、ツツジを植栽し公園化。また、ビオトープ(500㎡)を造成し、ホタルの幼虫と餌となるカワニナを放流。
- いきいきふれあいサロンを通じて三世代交流の活性化を図るほか、地域ぐるみで参加できる催しを行う。

活動の効果

- 自治会、老人会、自治消防団、婦人部、子供会、水利組合、油井水土里保全組合など各種団体の連携を図り、協力体制を構築のうえ様々な保全活動に取り組んだ結果、地域の環境づくりに役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

美しい農村環境と様々な遺跡・伝説・それらを育んだ地域資源を守り、環境を重視した住みよい、楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

ごとうさとづくりのかい

五郷里づくりの会

～「GOGO五郷！」文化は山から降りてくる～



ピザ石窯・建屋を手づくりで建設



里山歩き



みかん狩り体験

経緯

- 人口減少や高齢化が進む中、平成17年の市町合併による「五郷の地名消失」や平成18年の「五郷小学校の廃校」により地域のつながりが消失の危機。
- 地域コミュニティの存続が危ぶまれる中、平成23年、地域活性化活動の母体となる「五郷里づくりの会」を発足。

取組内容

- 地域活性化のシンボル、伝統文化の継承施設として「五郷水車」を復活させ、「水車米」の精米、もち米やそばの製粉などに活用。
- 手づくりのピザ石窯でのピザ作り、そば打ち・みかん狩り体験や人気のコンニャク作り等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。
- 地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、郷土料理でもてなす5コースの里山歩きツアーを開催。
- 郷土料理は大好評を博している。
- HP、SNS、「里づくり新聞」で情報発信。

活動の効果

- 年々広がっていく活動や取り組みにより、地域住民の理解が高まっている。地域の団結力が一層強まり、「人が輝く里山づくり」に向けて着実に進んでいる。
- 郷土料理(こもけ団子汁)は、一般の多くの方から好評を得ており、訪問者の増加に貢献している。ピザづくり体験、そば打ち体験、みかん狩り体験等も人気である。
- 五郷地区の知名度が上がり、豊稔池を始め地区を訪れる人が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

五郷は、五感に訴えかける魅力ある場所です。ぜひ一度、魅力ある五郷へ足をお運びいただいて、感じとってください！お待ちしております。地区内にも農家民宿があります。

HP: <http://gogou.jp/> Fb: 五郷里づくりの会

観音寺市大野原町井関538-4 Tel: 0875-54-3984

かんおんじ ほんむらちくかんきょうほぜんかい
観音寺市 本村地区環境保全会

～子供達に残す豊かな田園 皆で取り組む環境保全～



田植え前の克己営農組合メンバー



ひまわりを楽しむ介護施設の方々

経緯

- 農業者の減少や高齢化に伴う農業用施設の維持管理を地区全体で行うために設立。
- 本村地区の自然、環境、資源や伝統文化の大切さを後世へ継承してもらうことを目的とし、地区内の各種組織を構成員として活動を行う。

取組内容

- 景観形成のためのコスモスやひまわりを子供会、長寿会、営農組合が協力して栽培することにより、世代間の交流を促進。
- 5つの池、開水路及び農道の環境整備、EM菌利用による生ごみの堆肥化及び水路の水質浄化活動。
- 伝統文化遺産の保持、継承。
- 今年度よりレモン苗木を定植。

活動の効果

- 世代を越えた活動により、地域内の交流が活発となり、住民同士の連帯感、協力感を生み出すことができている。また、共用設備の補修による長寿命化や更新等で、防災・減災にもつなげている。
- ひまわりの作付面積を増やしたことで、鑑賞者が増えフォトスポットになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

自然、環境、資源、伝統文化を守り、次世代に継承するとともに、住みやすく楽しい地域づくりを、これからも実践していきます。

観音寺市豊浜町和田乙686 Tel: 0875-52-3844

おおのはらちいきしげんほぜんかい

大野原地域資源保全会

～子供会との清掃活動で地域を守る人間づくり～



カーブミラーの清掃



親子で協力して清掃

経緯

- 地域の国道、県道沿いで水路や農地に空き缶等の投げ捨てが多くその対応に苦慮。
- 平成26年度より多面的機能支払事業に取り組み、地域の環境保全活動を行うことにより地域住民が交流・連携することを目的とするとともに、子供会も含めた清掃作業を行い、地域を守る人間形成を目指すこととした。

取組内容

- 地域内にある子供会に呼びかけ、子供達を中心に保護者が付き添い、ゴミ拾い、カーブミラーの清掃等の環境保全活動を実施。

活動の効果

- 子供達が地域の大人たちと活動を行うことで顔見知りになり、挨拶ができるようになった。大人もどんな子供が住んでいるのかわかり、声かけするなど防犯上の効果が見られ、地域との関係が良好になってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

豊稔池土地改良区の受益地域で多面的機能支払交付金活動を実施している。活動組織を中心に他地域と連携協力し、この活動が旧大野原町全体に広がるようPRしていきたい。

高松市番町五丁目1番29号 Tel: 087-832-7140

みなみがわじねんじょけんきゅうかい

南川自然薯研究会

～「特産の自然薯」で地域おこし、全国発送へ～



自然薯直売所・南川自然の家



中学生との自然薯掘り体験学習

経緯

- 昭和62年、農家の有志が転作作物として自然薯栽培を開始。
- 品質の向上に向けて、試行錯誤を繰り返し、次第に品質の良いものができるようになり、今では県内外でも有数の産地となる。
- 平成元年4月に研究会を設立。
- 平成13年に全国宅配、じねんじょまつりを開始。
- 令和元年度の栽培は1.7haで、2,800kgを収穫し完売。

取組内容

- 年3回、栽培履歴の作成を含めた栽培圃地巡回研修を実施。
- 地域の一大イベントとして南川じねんじょまつりを開催し、自然薯を使った料理コンテストなどを実施。
- 中学生等の自然薯掘り体験学習の実施。
- 地元での直売、全国への宅配、各種イベントへの出店など、積極的に販路を拡大。

活動の効果

- 地域高齢者の生きがい対策と地域を元気にする起爆剤となっている。
- 収穫物は直売と全国宅配で完売、消費者との信頼関係を構築。
- 地域の一大イベント「じねんじょまつり&収穫感謝祭」を毎年12月に開催し、地域内外の人との交流を通じて地域が活性化。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも地域だけでなく関係機関と連携し、後継者を育成しながら生産量の拡大を図り、消費者ニーズに対応していきたい。

さぬき市大川町南川1317番地2 Tel: 0879-43-4066

とよたきょうてい

豊田協定

～被害をゼロに！「集落ぐるみ」で獣害対策～



獣害対策で、県内外から多数の視察を受入れ



「集落ぐるみ」で元気に草刈り作業

経緯

- 平成8年頃にイノシシ、サルによる農作物被害が集落全体で認められるようになり、農業者の中には、作付けを諦める者も現れる。
- 獣害の影響から集落の中央部に位置する基盤整備田でも休耕地となるところが発生し始めた。
- 集落や農用地の存続に危機感を覚えた有志数人が平成17年に「集落ぐるみでの獣害対策」を唱える。

取組内容

- 共同家庭菜園の運営、山際に防護柵とストップゾーン(緩衝帯)を設置。
- 集落を囲む侵入防止柵の設置、集落内の農家・非農家を含めた全員による維持管理。
- 効率的に有害鳥獣を捕獲し、一部を処理・加工して販売。
- 営農集団を設立し、農作業受託を推進しながら、酒米を作付け。

活動の効果

- 平成23年度以降、野生鳥獣による農作物被害がほとんど認められなくなり、休耕地120aを復田。集落内で相互の関心や話し合いの機運が高まる。
- 県内外の獣害対策を講じようとする自治体、団体等の先進事例となり、県内外から多くの視察を受入。
- 非農家を含む全戸が施工、維持管理に携わる事で関心や責任感を形成。侵入情報等の共有化が早まり効率的な獣害捕獲に繋がる。

応募団体からのアピール・メッセージ

作業の効率化や地域特産物による所得向上に取組み、新たな担い手確保に努めます。これからも、「集落ぐるみ」で、魅力ある集落を次世代へ引き継ぐ取組を継続したいと考えています。

さぬき市大川町田面2094-2 Tel: 090-1574-6448

かぶしがいしやそとれいくひけた

株式会社ソルトレイクひけた

～ハマチ養殖発祥の地、安戸池で海と、魚と友達になろう～



はまちまるごと学ぼう



ひけた鰯の入荷

経緯

- 東かがわ市がハマチ養殖発祥の地「安戸池(あどいけ)」に漁業体験施設「マーレリッコ」を建設する際に、施設の管理運営を担う組織として設立。
- 養殖漁業の体験や地域ブランド「ひけた鰯」を活用した食育教室を展開することにより、施設への集客を図ることとした。

取組内容

- 養殖体験施設、食堂、管理釣り堀を運営し、香川県等とともに連携しながら、東かがわ市の推進する着地型観光の一翼を担う。
- 地域イベントに積極的に参加し、施設のPRに努める。
- スタッフが香川県認定の「お魚一匹食べよう伝道師」等の資格を取得し、幅広い年齢層に魚食教育の普及に努める。
- 地域ブランド「ひけた鰯」の解体実演による販促活動を実施。

活動の効果

- 活動がTVやマスコミ等に取り上げられることが増え、体験学習館の知名度が向上し、多くの小学校等の校外学習の受入れにつながっている。
- 団体向けハマチ解体実演は口コミ等により自治会、婦人会からの依頼が増加し、出張しての魚食教育、実演等も行うようになった。
- 外国からの旅行者からも好評を博している。

応募団体からのアピール・メッセージ

解体実演を商品として販売する取り組みを通じて、過疎地域である東かがわ市への交流人口の増加に寄与したいと考えています。

東かがわ市引田4373 Tel:0879-33-2800

だいちとかたりあうかい

大地と語り合う会

～農業はいのちと語り合う営みである～



ボイセンベリーの果実



ボイセンベリーの商品(果汁・ジャム)

経緯

- 安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたい地元農家の主婦達が集まり、「大地と語り合う会」を結成。
- 休耕地の有効利用、地域活性化、高齢化社会に役立つ農作物として木イチゴの一種である「ボイセンベリー」の栽培を開始。

取組内容

- ボイセンベリーや野菜栽培は、減農薬または栽培期間中、農薬不使用で取り組む。
- 定期的な勉強会や情報交換を通じて、地域の環境に適した施肥設計を完成。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁、ジャムなどの加工品を製造・販売。加工残渣も化粧品等の原料として販売。
- 平成29年に新たな加工場、直売所兼カフェを建設。

活動の効果

- 野菜や加工品の販売及び各種イベントへの出店を年間90回実施(令和元年度)。
- 海外でのボイセンベリー栽培の研修を実施し、三豊市の「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要領」を作成(栽培技術の向上に寄与)。

応募団体からのアピール・メッセージ

休耕地の有効利用と若者達とのボイセンベリーや野菜栽培に心を繋ぎ、「心の豊かさ」を求めて今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

ただ ひろみ
多田 弘美

～農業はいのちと語り合う営みである～



ボイセンベリー果実の瞬間冷凍



直売所兼カフェ

経緯

- 安全で安心、美味しいと喜んでもらえる野菜や果物を作りたいと思う、地元の農家の主婦たちが集まり、「大地と語り合う会」を結成。
- 地域の活性化、休耕地の有効活用になる農産物を探し求め、目に良いとされるポリフェノール(アントシアニン)が豊富で、高齢者の健康増進に役立つボイセンベリーにたどり着く。

取組内容

- ボイセンベリーは地元企業が製造販売している香川県産孟宗竹農業資材を使用し、減農薬または栽培中農薬不使用で取り組む。
- ボイセンベリーの加工品には、「ボイセンベリーみとよ」の商標を取得し、ブランド化を図っている。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁やジャム、加工した際に出た搾り粕を化粧品の原料や竹発酵資材使用肥料の原料として販売。
- 平成29年に新しい加工場と直売所兼カフェが完成。

活動の効果

- 減農薬または栽培中農薬不使用のため、多くのお客様から重宝されている。
- 海外での研修や勉強会を開くことにより、「ボイセンベリー栽培マニュアル実施要項」を作成。栽培技術が向上し、実も大きく糖度の高い甘い実ができるようになった。
- ボイセンベリーの生産を図る活動の中で、8年間閉じこもり状態だった青年に出会い、ボイセンベリーの栽培を指導する中で社会復帰のお手伝いをすることができた。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

私たちの役割は、休耕地の有効活用と若い世代の人達とボイセンベリー栽培、野菜の栽培に心をつないで自然を大切に、地元の活性化に繋げるよう今後もいろいろな分野に挑戦していければと考えています。

しもたかせこどもすこやかぼらんていあ

下高瀬子どもすこやかボランティア

～子どもが育ち、地域が支えるファーム活動～



昔の道具、定規で田植えの指導



水車を用いた水入れ体験

経緯

- 米の減反政策が行われていた26年前、休耕田の有効活用を考えていた代表と下高瀬小学校職員の思いが一致し「下高瀬子どもすこやかファーム」が誕生した。
- 子どもたちに何か役立つ農業体験をさせたいと思った代表夫妻が水田を学校田として貸し出し、稲作指導を始めた。

取組内容

- 専門的な知識や技能を持つ地域ボランティアとともに下高瀬小学校のファーム活動を支援。
- 第1ファームでは、イチゴや黒豆、サツマイモなど野菜を栽培。
第2ファームでは、「特色ある米作り体験活動」として、昔ながらの道具を使う手作業体験や、アイガモ農法を実施。収穫後は調理したり、地域行事で販売したりするところまで児童が行えるようにサポート。

活動の効果

- 年間を通しての米作り体験学習で、児童は育てる仕事の大変さ、昔の人の知恵や工夫、命と食のつながり、感謝する心など多くのことを学んでいる。今後は古代米の作付けや「稲作アート」にもチャレンジしたい。
- 長年にわたる活動は、地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールの具体的な姿の一つとして、重要な役割を果たしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

メンバーはみんなの笑顔のために頑張っている。今後も子どもたちや先生方と感動を分かち合い、このやりがいのある活動を続けていきたい。

しょうどしまやかたぎきゆうひのおかけいしょうかい

小豆島屋形崎夕陽の丘継承会

～百年後の子孫に遺す豊かな人情と美しい風景～



園児たちとのアズの植樹祭



毎月、段々畑の手入れに奮闘中

経緯

- かつては「日本の夕陽百選」にも選ばれた名所だが、近年は雑木林になっていた。
- 2013年の瀬戸内国際芸術祭を契機に、有志が一念発起。雑木を整備し、人々が集まる美しい夕陽の丘へと再生する活動に取り組んでいる。

取組内容

- 荒廃化した段々畑を整備し植樹祭イベントを実施し、地元の園児とともに植えたアズとレモンの無農薬栽培を企画。
- 「東瀬戸内小豆島狼煙隊」のメイン会場となり併せて「四海水軍太鼓」による演奏を企画し、老若男女が楽しめるにぎわい作りを企画。
- 果実の収穫量増加に伴い特産化を目指して島内飲食店と協力。東京のアンテナショップでの販売や次回の瀬戸内国際芸術祭に向けてジャム等の商品化を開始。

活動の効果

- “ハイジのブランコ”や“ハンモック”を手作りし、菜の花やヒマワリなど四季折々の花を咲かせた高台はHPやインスタグラム掲載数も増加し、隠れフォトスポットとして島内外の訪問者数増加につながった。
- 月に1度の草刈日は移住してきた若者もボランティアで参加し、地域住民との交流の場になった。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在の取組みを地域に波及させ、知名度の向上と交流人口の増加を目指しています。花見や収穫体験など訪れる人々との交流イベントを企画し、収穫した果実については地域飲食店等と連携して加工食品化に取組み、事業の輪を拡大していきます。

しょうどしまひあたりのさといぎすえ

小豆島陽当の里伊喜末

～農業の大切さや地元への愛着心を伝えたい～



芋掘り体験みんなで写真撮影



芋づるの塔



オリーブ収穫体験

経緯

- 瀬戸内海を望む風光明媚な地区だが、過疎化・高齢化が進み、数年前から荒廃地が目立つようになってきた。
- 危機感を抱いた有志数名が、地域に活気を取り戻そうと、農業振興と明るく元気な農村づくりをめざし、平成29年度に「小豆島陽当の里伊喜末」を立ち上げた。

取組内容

- ビール醸造所「まめまめビール」と「小豆島陽当の里伊喜末」が協力して、100%小豆島産のクラフトビールを誕生させる「二条大麦プロジェクト」を実施。
- 地元の子供らにサツマイモのつる挿しと収穫の体験を実施。
- 獣害の防止のため、約2.2kmに渡る被害防止柵を設置。

活動の効果

- 麦やオリーブの作付けにより遊休農地の解消。
- 「芋づるの塔」は芋のつるを自然乾燥させて牛の餌や堆肥にするための古くからの知恵で、地元住民と町職員でつくる「よつみいきいき協議会」が2010年から、地域の風物詩として実施している。
- 獣害防止柵の設置により、現在では獣による被害はほとんど見受けられない。

応募団体からのアピール・メッセージ

グリーンツーリズムなどのイベント参加の募集や活動の情報発信のためHPを開設し、当地区内の各団体と連携を図り、様々な活動を行って元気な農村にしていきたい。

しょうどしましょうななかやまたなだきょうぎかい

小豆島町中山棚田協議会

～先人の汗の結晶を未来へ継ぐ「中山千枚田」～



中山千枚田における田植え作業



伝統行事中山農村歌舞伎

経緯

- 中山千枚田では、耕作者の高齢化と後継者不足が進み、エリアの3割が耕作放棄地となり、地区住民は将来を危惧していた。
- 文化の源である中山千枚田を守るためにアドバイザーに農村工学研究所を迎え、住民主体のワークショップ等を通じて、「棚田の村構想」を打ち立て、その具体的な取り組み主体として設立された。

取組内容

- 平成25年に日本とインドネシアの6大学による農業体験プログラムをきっかけに、学生たちによって「棚田の会」というプロジェクトが立ち上げられ、ボランティアの受け入れや棚田の耕作体験の支援を実施している。
- 平成27年度から、地元の酒造会社と連携し、酒米の耕作に挑戦している。そして、精米歩合などにこだわった小豆島の地酒として販売されている。

活動の効果

- 地区外の人たちとの交流により、外部の視点から意見を聴く機会が多くなり、今まで気が付かなかった棚田の魅力に気づき始め、地元住民の棚田の文化を守らなければという意識が強くなってきた。
- 休耕田となっていたところや耕作者が不在となるところで、酒米づくり等を実施することにより、休耕田の解消・予防につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

「全国棚田百選」にも選ばれた中山千枚田の棚田カード配布中。
小豆島には魅力あふれる観光地が満載！ぜひ、お立ち寄りくださいませ。

小豆島町片城甲44番地95 Tel: 0879-82-7026

ひがしじょうちきのうぎょうしゅうだん

東條地域農業集団

～小豆島で、子供と一緒に心豊かなむらづくり～



どろんこ祭り



さつまいもの植付け

経緯

- 基盤整備を契機に農地の受託者を組織化するため、集落営農組織を設立。
- 安全・安心なお米を消費者に提供するため、全構成員がエコファーマーの認定を受け、減農薬・減化学肥料栽培に着手。
- 水稻の共同防除にドローンを使用。会員を対象にGAP講習会を実施。

取組内容

- 米の減農薬・無化学肥料栽培による安全・安心なブランド米「安田の郷」を栽培。
- 農作業体験の実施とともに、産直市場・農家食堂を開設、収穫祭の開催など生産者と消費者の「顔の見える」結びつきを強化。
- 地元の子供を対象に水稻やサツマイモの栽培等10回以上の食育イベントを開催。
- 地域住民と共に地区全体に獣害対策用柵を設置したほか、会員が狩猟免許を取得して箱罠を設置。

活動の効果

- 独自ブランド米「安田の郷」は、毎年早期に完売し購入希望数に追いつかない状況。
- 米やさつまいもの農作業体験や農産物を利用した食育イベントを通じ、保育所・幼稚園・小学校等の子供たちへの情操教育に貢献。
- イノシシ・シカなどによる獣害対策に取り組み、自作の箱罠などにより毎年多くのイノシシを駆除。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業者の高齢化と地域の過疎化が進む中、農地を守り次世代へ継承するとともに、地域内外の交流促進により「活気あふれる心豊かなむらづくり」を目指しています。

しょうどしましょくざいかいはつかいぎ
小豆島食材開発会議

～島を元気に！「小豆島長命草プロジェクト」～



収穫から調整作業までの出荷体制を皆で確認



長命草さめきうどん

経緯

- 島内企業から、新商品開発に繋がる特長ある原料農産物が求められていた。
- 長命草は、島嶼部の露地栽培に適した塩生植物で、醤油粕を肥料に活用できる上、軽量で高齢者にも栽培し易い。また、栄養価が高く機能が期待されるため、これを特産品化することで地域振興につなげようと食品団体等と生産者有志が集まり、6次産業化とPRの取組みを開始した。

取組内容

- 「醤油粕」を肥料化し、農薬や化学肥料を使わない栽培技術を確認。オリーブの絞り粕の堆肥の使用など、効率化に向け新たな栽培方法を調査中。
- 「しょうどしま長命草」の商標権登録を申請し、14点の商品の更なるブランド化を図った。
- 「血糖値抑制効果」があるとされる長命草を練り込んだ無塩のさめきうどんを開発し、機能性表示食品として登録。
- 子どもたちとの料理教室で長命草をメニューに取り入れて紹介。

活動の効果

- 長命草は地元食品企業との契約栽培のため、農業者は安定した収入を確保している。
- 食品企業は産業廃棄物だった製造副産物(醤油粕)が活用でき、小豆島らしい循環型の効率的な栽培方法が確立された。
- 島内小学生への苗の無償配布や島内イベントへの出展を継続することで、新たな健康食材として注目度が高まった。長命草を目当てにしたイベント等での集客が増え、島内飲食店やパン店等で新たに扱う店舗も増え、地域の活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「小豆島長命草プロジェクト」は、長命草を使った小豆島らしい特産品づくりと地域振興を目指した取り組みです。 <https://shodoshima-choumeisou.com/>

小豆島町馬木甲1032-1 Tel:0879-82-1011

まるおかいきいきくらぶ

丸岡生き生きクラブ

～集落の豊かな自然環境を守る！～



子供中心で行うサツマイモ植え付け



子供達も楽しみにしているコスモス祭り

経緯

- 農地・水・環境保全活動に取り組むため、丸岡営農組合が中心となって結成。
- 丸岡集落の豊かな自然環境を守るため、農業者以外にも様々な立場の住民をまきこむ。

取組内容

- 4月 用水路清掃
- 5月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ植付
- 6月 用水路清掃
- 7月 ため池堰堤草刈り
- 8月 コスモス畑耕耘、播種
- 9月 ため池堰堤草刈り、サツマイモ収穫
- 10月 コスモス畑周辺草刈り
- 11月 コスモス交流会(保育園児・老人施設等招待、小学生展示物作成、今年は見送り)
- 12月 ため池堰堤草刈り
- 1月～3月 用水路・水門補修 (年間スケジュール)

活動の効果

- コスモス交流会(令和2年は新型コロナウイルスの影響で開催を見送り)は、来訪される方が少しずつ増加し、地域の活動団体も新たに生まれている。
- 農業者以外にも様々な立場の住民が一体となったことで、丸岡集落の豊かな自然環境を守れている。

応募団体からのアピール・メッセージ

役員及び住民の高齢化が不安材料ですが、若手の後継者を育てつつ、活動内容を再点検して有効かつ無理のないものに集中しながら取り組んでいきたい。

みつごいしいけしげんほぜんくみあい

三ツ子石池資源保全組合

～地域 みんなで明るく・楽しく～



田中幼稚園芋ほり大会



遊休農地を活用したコスモスの植栽

経緯

- 宅地化が進み、非農家との混住化、農業従事者の高齢化等により農家個々のみでは地域内の農業用排水路等施設及び地域農業を守ることが困難となる。
- 地域コミュニティにおける交流が希薄化しており、地域一体となって地域資源である農地、農業用施設の保安全管理が必要となる。

取組内容

- 住民アンケート結果を踏まえた体制整備構想を作成し、地域資源の保安全管理、農業後継者の育成・確保及び地域の連携を柱とした活動に取り組む。
- 隣接する活動組織と共同して主要幹線道沿いの農地70aにコスモスを植栽。
- 地区内の幼稚園児を対象に「親子連れ芋ほり大会」を実施し、ドローン撮影による「思い出提供」に取り組む。

活動の効果

- 農業用施設の点検・維持・改良はもとより、集落間のつながりが深まったことや農家と非農家の交流が促進された。
- コスモス植栽では、訪れる写真愛好家や親子連れとの交流が生まれ、「さわやかロード活動」などの景観保全意識が高まりつつ継続されている。
- 26年ぶりに新嘗祭の「献穀田」が受益地区内で選定された。

応募団体からのアピール・メッセージ

この活動を可能な限り三木町全体に広げるべきと考えており、高齢化等による活動継続が難しい組織に対する支援(区域編入等)を予定しています。

いなぎ けんぞう
稲木 健造

～化粧品原材料を目指した特別栽培の米作り～



海外顧客と昔ながらの定規での田植え体験



海外顧客と五右衛門風呂体験

経緯

- 平成25年度から綾川町で県独自水稲品種の「おいでまい」の低農薬栽培に取り組んできた。
- 米の発酵エキスが基礎化粧品の原料となることが注目され、家族の就職先であった高松市の化粧品製造販売会社と連携。特別栽培に切り替えた「おいでまい」を化粧品の原料として供給することになった。

取組内容

- 株式会社「アイム」の基礎化粧品「ライスフォース」の原料として出荷するにあたり、エコファーマーの認定を受け、減農薬、有機肥料の使用など安全性を重視した特別栽培にシフト。
- 安全性のアピールとブランド確立のため、海外の販売代理店を招待して栽培方法や管理状況を説明。
- 農家民泊「稲木家」を開業し、農家体験希望者を受け入れ。

活動の効果

- 化粧品の原材料に使用する特別栽培米作りは、農水省の6次産業化・地産地消費に基づく「総合化事業計画」の認定を受けた。また、かがわ産業支援財団の6次産業化へのサポートを受け、米の新たな活用法を見いだした。
- 農業体験や五右衛門風呂に入ってもらするなど綾川町の自然を体感してもらい好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業を通じた地域経済の活性化や農家の継承者問題の解決を目指し、さらには伝統的な日本文化や香川県の自然と文化を世界に向けて発信していきたい。

綾川町北235-1 Tel: 090-3180-1473

のうだひがしかんきょうほぜんのかい

苗田東環境保全の会

～子供たちが描くポスターでふるさとを考える～



苗田東地区のPRポスター



子供たちと清掃活動

経緯

- 昭和42年に構造改善事業で基盤整備を行い農業中心の地域づくりをしていたが、世代交代や少子化が進んだために住民同士の交流が希薄になり、伝統行事の継承が難しくなっていた。
- 子供たちを交えて環境保全活動を行うことにより、以前のような交流の盛んな地域づくりに取り組むことにした。

取組内容

- 子供会と連携して道路沿いに投げ捨てられた空き缶等のゴミ拾いを実施。
- 子供たちが環境保全や苗田東のPRポスターを作成。9月に琴平町役場ロビーに展示した後、防水加工を施して青年部を中心とした地区住民が、ゴミの投げ捨ての多い幹線道路沿いに設置。

活動の効果

- 子供を中心とした活動に大人と一緒に参加することで、地区住民の連携が密になった。また、活動に参加する中で地元を良くしようとする意識が向上。地区の伝統文化である獅子舞に子供達が進んで参加するようになり伝統文化の継承につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

活動内容を発展させるアイデアを誰もが提案できる環境を整備し、若い世代の自主性を重視した活動を行って地区を発展させていきたい。

まんのういけとちかいらょうく

満濃池土地改良区

～満濃池1300年の知恵と歴史を次世代へ～

貯水量1,540万m³を誇る満濃池

かりん会館で満濃池の歴史ガイド

経緯

- 毎年6月に行われる「ゆるぬき」には、多くの観光客が訪れ、讃岐路に夏の訪れを告げる風物詩となっている。また、ため池百選など多くの称号を得ている。
- 満濃池の歴史と先人たちの偉業を広く伝えるため、ボランティア団体などの文化活動を支援するに至った。

取組内容

- 古くから地域の水利事情に精通した者が、複雑な水利慣行を次世代に伝える組織体制を整えて後継者を育てている。
- 県下小学校では郷土学習の一環として満濃池の歴史を学習。社会科見学に毎年多くの子どもたちが訪れる。
- JICA研修によるアジア・アフリカ地域の技術者の他、県外の土地改良関係団体の現地視察を受入れ。

活動の効果

- ボランティア団体を中心に、池周辺の森林や公園への桜の植樹活動、学生や観光客への歴史ガイド、湖畔コンサート及び健康マラソン大会の開催など、満濃池を核とした活動も活発化しており、地域社会における観光資源とともに文化的シンボルとして大きな存在感を示している。

応募団体からのアピール・メッセージ

満濃池の文化的価値を高める活動を支援しており、土地改良施設の持つ多面的機能を広くPRするきっかけとなることを期待している。

琴平町榎井500-1 Tel:0877-75-3157

しまがみねのげんふうけいをまもるかい

島が峰の原風景を守る会

～初めて会った人達もいつか笑顔のそばづくり～



島が峰の原風景



出張そば道場

経緯

- 島が峰地区は標高800mの山あいにある。かつては牧場やキャベツ畑にしていたが、人口減少・高齢化に伴い次第に衰退して荒地になっていった。
- 状況を憂いた数名の同志が、2016年より荒廃地の開墾から始め、寒暖差を利用したそば作りを開始した。

取組内容

- グリーンツーリズムの一環として、開墾した農地の一部を利用して「そばの栽培体験」を実施している。
- そばの花が満開となる9月下旬頃に「そばの花見会」を開催し、打ち込みそばの無料接待やミニコンサートなどを行っている。
- そば打ち体験ができる「そば道場」では出張道場も行い、そば粉から茹で上げまでの全工程を教えている。

活動の効果

- 耕作放棄地を開墾することによって、徐々にかつての風景を取り戻しつつあり、棚畑の美しさに魅了された写真家も多く訪れる。
- 収穫されたそばを用いた「そば道場」を各地で行うことにより、受講者が地元でそばを振る舞うなど、活動の影響が県内各地に波及している。
- 会員数が増加し、そばを活用しての6次産業化に向けて試行錯誤を繰り返しながら過疎地域の活性化に取り組んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

この地の食文化や風景を次世代に残したいという思いで、会員一丸となって取り組んでいます。多数の来訪者に対応できるよう駐車場や展望台の整備を行いました。

ほのやまちいきほぜんかつどうそしき

帆山地域保全活動組織

～ほのやまロード、ひまわりに託す夢と希望～



中山ひまわり団地



地元小学生による総合学習

経緯

- 「帆山農業改善団体」を中心に営農活動を行ってきたが、農業従事者の高齢化等が進み、地域農業の維持が困難。
- 新たに農事組合法人「ほのやま」を設立、農地の利用権設定や作業受託等に取り組み、農地集積と機械の有効利用を図ると共に、次世代の担い手を育成。

取組内容

- ひまわり18ha、約100万本の開花にあわせ「ひまわり祭り」を開催。写生大会やフォトコンテストなどを実施し地域の活性化に寄与。
- 「ひまわり油」や県内企業と連携し、「ドレッシング」、「ひまわり牛」と孟宗タケノコを使用した「ヒマワリコロッケ」など地域の特産品を開発し最寄りの道の駅などで販売。
- 「ひまわり米」の生産に加え、新たにひまわりの油粕を使用した焼酎「みちる」を販売。

活動の効果

- ひまわり祭りは、地域住民の世代を超えた交流の活性化や若者のボランティアが増加するなどまんのう町のイベントに発展、県内外から延べ5万人余りが訪れる夏の風物詩に成長。
- 県内企業や地元の畜産農家と連携し、ひまわりを活用した特産品を数多く開発・販売、人気商品となり地域経済の活性化に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の花風景100選に選ばれたひまわりの里帆山地区。魅力ある農村景観を未来に繋げたい思いで、今後も耕作放棄地の解消を推進し更なる地域の活性化を目指したい。

まんのう町買田277-1 Tel: 0877-73-5371(事務局 近石)

かぶしがいしゃ ぐりーんぱーくまんのう
株式会社 グリーンパークまんのう

～ひまわりを活用した町おこしプロジェクト～



ひまわりの刈り取り作業



イベント販売時の商品陳列状況

経緯

- 平成元年度から取り組んでいたひまわり事業を、地方創生の流れの中で農業振興策として平成28年度から町を挙げて取り組むこととなり、景観作物のひまわりと共に搾油用ひまわりで採れたオイルを地域ブランドとして全国に向け販売促進を行っている。
- 第3セクターとして町と連携してひまわり事業を支援し、雇用の拡大及び農家の所得向上に貢献すべく取り組んでいる。

取組内容

- 町が整備した「ものづくりセンター」でひまわりオイルの製造・販売を受け持ち、町と連携しながら高品質オイルを全国に向けて販売促進している。
- ひまわりオイルを使ったドレッシングは、町内の道の駅・まんのう公園内で販売。
- 農業法人「ほのやま」から、ひまわりオイルで揚げた「ひまわりコロケ」を買い取り、まんのう公園内のレストランで販売。
- 様々な事業者（化粧品・食品）へのアプローチを行う。

活動の効果

- 平成30年度の香川県産品コンクールでは最優秀賞の知事賞。各県の1位が集った「ふるさと優良食品中央コンクール」で最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞する栄誉を手にした。
- 県内外の百貨店等での販売も順調に増加している。
- ひまわりオイルを使ったドレッシングは、道の駅・まんのう公園で好評商品となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も当該事業に力を注ぎ、景観作物としての観光資源による経済活動と共に、農業振興施策として生き残りがかかった自治体間競争の一助となるよう活路を求め積極的な販売戦略を展開しながら多くの関係者と協力することで発展させていきたいと考えています。

まんのう町炭所西2159 国営讃岐まんのう公園内 Tel: 0877-79-1730